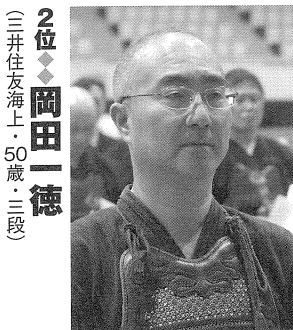
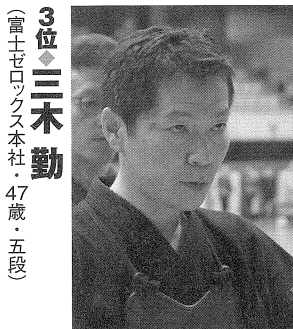


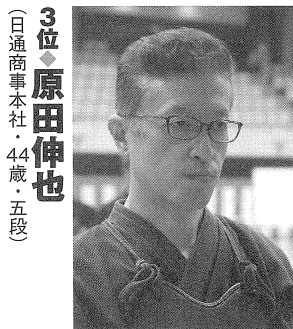
優勝◆柴田博充
(パナソニック本社・44歳・五段)



2位◆岡田一徳
(三井住友海上・50歳・三段)



3位◆三木勤
(富士ゼロックス本社・47歳・五段)



3位◆原田伸也
(日通商事本社・44歳・五段)



柴田(パナソニック・本社)◎メー **三木**(富士ゼロックス・本社)

▲4年ぶりの優勝も見えた三木だったが、つばぜり合いからの起こりに柴田が絶妙のコテを打ち込む。二本目の合図とともに両者メンに跳ぶが(写真)、この打ち合いも柴田が制した

柴田に栄冠

(パナソニック・本社)
高壮年五段以下の部



柴田(パナソニック本社)◎コー **吉川**(JR東日本リテールネット・本社)

▲上段からの片手メンを要所で決め、準々決勝までコマを進めた吉川。だが、柴田は左ゴテの二段打ちで一本を先制すると、最後は吉川の出ばなに左ゴテを打ち込んだ(写真)



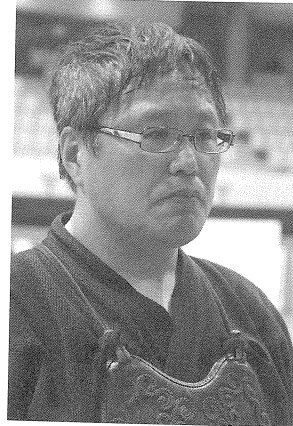
柴田(パナソニック・本社)◎コー **岡田**(三井住友海上)

▲圧倒的なスピードで柴田が序盤から攻め立て、つばぜり合いからのひきメンで一本を奪う。攻めの手をゆるめない柴田は大きくメンに出ると見せてからコテに変化し、二本目を決めた(写真)



岡田(三井住友海上)◎メー **原田**(日通商事・本社)

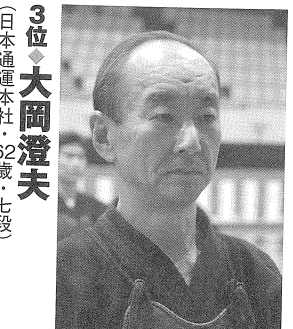
▲延長戦にもつれる戦いを連続して切り抜けた岡田が、準決勝では吹っ切れたような戦いを展開。相手の出ばなにメンを決めると(写真)、二本目開始直後には跳び込みメンを決めた



優勝◆日永田好和
(グローリー本社・51歳・七段)



2位◆南昌和
(NTT東日本本社・42歳・七段)



3位◆大岡澄夫
(日本通運本社・62歳・七段)



3位◆松本伸二
(三井住友海上・50歳・七段)



大岡(日本通運・本社)◎メー **西寅**(小西酒造)

▲長身の大岡が大胆な攻めからドウに切り込んで一本を奪う(写真)。あきらめない西寅は大岡のコテの打ち終わりをメンにとらえてタイに戻すが、その後、大岡の鋭いメンが決まる

日永田(グローリー・本社)◎ー **大岡**(日本通運・本社)
▲ジリジリと問合を詰め合う緊迫の展開から日永田が攻めかかる。コテ、ひきメンと積極的に技をかける日永田、大岡の出でくる瞬間を見事なコテにとらえた(写真)。その後、大岡も反撃を試みるも一本返すには至らず

日永田が執念の勝利

(グローリー・本社)
高壮年六段以上の部



南(NTT東日本・本社)◎メー **松本**(三井住友海上)

▲豪快なメン技で応援席を沸かせた南。その後も旗が一本上がるコテを放つなど優勢に攻める。松本のメンをドウに切って先制した南は、直後、豪快なメンを追加した(写真)

483人の選手がエントリーした過酷な戦い。今大会には立見(三井住友海上)の3連覇という大記録がかかったが惜しくも3回戦で敗退。本命不在となった戦いを制したのは日永田(グローリー・本社)だった。

決勝戦を戦ったのはかつて実業団大会(団体戦)で活躍した南(NTT東日本・本社)である。竹刀さばきに充実ぶりがうかがえた南は準決勝の松本(三井住友海上)戦でも速攻の勝利を収めて、優勝への強い意気込みを感じさせた。

決勝戦もまた南が強さを見せて見事な技で一本先制。これで勝負ありかと思われたが、ここから日永田が執念を見せて二本奪取し、初優勝の栄冠に輝いた。

日本一の栄冠に、日永田は充実の笑顔。「一試合一試合稽古のつもりで戦いました。昨年はベスト8で敗れまして、もうその次の日から今日のこの大会に向けて稽古を積んできました」

会社所有の道場にて行なわれる月曜、水曜、金曜、土曜の週に4度の稽古に積極的に参加し、鍛え上げてきたという。今大会に賭けた執念が実った。

